

コスモス 5月号

第67巻 第5号

◆宮柁ニカレンダー(2) 五月の歌

春おそ晩く五月のきたる我が郷くや木々りよく緑金きんに芽ぶ
きわたれる
歌集『緑金の森』

作者の郷里新潟県北魚沼郡あたりは、豪雪地帯で、春のくるのも遅く、ようやく五月頃に山々の木々が一様に洪く暗い緑金色の芽ぶきの季節をむかえる。

第七歌集『藤棚の下の小室』には、井の頭の自宅の庭木々の芽ぶきを詠んだ「萌えいでし若葉や棗は緑の金、百日紅ひゃくにじゅうこうはくれなるの金」という脚韻をふんだ光耀感にみちた一首があるのだが、第一〇歌集の歌集名にも依拠する掲出歌には、晩春に木の芽どきを迎える郷里への憂愁と嗟嘆の絢いませになつたような情感が流れている。
(杜沢光一郎)